

e-ビーフNEWS 北の牧場から

January 2014

「e-ビーフNEWS北の牧場から」創刊に当たって

新年あけましておめでとうございます。当会も14年目に入ります。昨年はシンポジウム10回目を帯広畜産大学で開催する事ができました。参加人数は行事も重なり少なかったですが、その後の日本短角牛試食会やe-ビーフ試食会&意見交換会は、例年通り、大変盛り上がりました。

さて、年々、畜産状況は厳しさを増しております。飼料価格の高値安定やバブリーな素牛価格の高騰は、昨年までの枝肉の上昇や補てん金対応ではまかなわれないものがあります。ましてや東電補償金はあり得ません。アベノミクスで好景気が続いて枝肉価格が高騰し続けるとは思われません。TPP締結を踏まえ、今後より生産コストの根本的な見直しをやらないと大きな損失を被り、負債を抱えることになるでしょう。

生産を足下から見すえ、原点に戻り、地場のものの活用を考えてゆく必要が一層深まっております。当会では、情報発信源として「e-ビーフNEWS 北の牧場から」を創刊しました。昨年のシンポジウムのテーマ「生産の自給力」の深化を提案できるように働きかけてゆきます。



NEWSばか読み

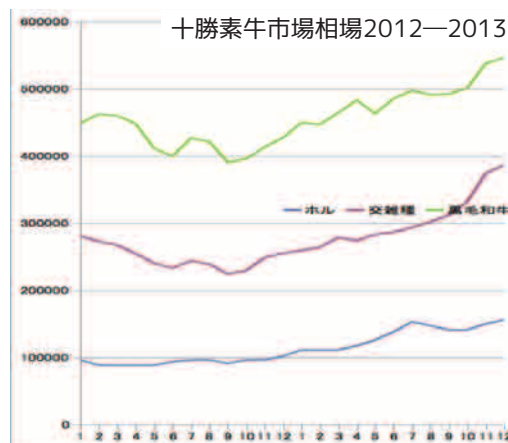
- 和牛素牛相場高騰12/3: 肥育農家の負担増加。
1頭原価百万円。なんぼで売ればいいの。
- 和食ユネスコ世界文化遺産に12/6: 輸出に打って出る口実作り
- FTA韓国豪州締結へ12/6: 韓国農家の悲劇
先行する韓国農業の検証を
- 農地集積バンク法成立12/5: 悪法農地法の崩壊
農業の企業化に弾みがつくかはJA次第。
- 食品虚偽表示でメニューの原産地表示強化12/8:
聖域の外食産業にメス、刑事罰に。
- 減反政策の廃止、飼料米の補助制度見直12/9: TPP布石か。
- 企業の接待交際費緩和12/10: 飲めや歌えや…外食伸張
- セブンアイホールディングス天満屋(岡山中心百貨店SM)
買収12/10: 2大勢力に集約化
- TPP締結延期、翌年へ12/11: 米国は、一旦引いても翌年圧力倍返し
- 輸入牛肉在庫増加12/11

円安・原料高で仕入れ価格アップと需要の低迷

- 牛乳小売価格の値上げ転嫁はPB進まず12/12: スーパー安売り合戦中
- 消費税10%導入時に軽減税率導入か12/12: 食品だけでも…いつも裏切られるからね。
- 農水予算2兆3千億円12/13: 直接農家に廻るのは…
- 豚流行性下痢(PED)感染拡大の可能性(沖縄7年ぶりに発生)
12/16: 注意
- 生乳生産補給金限度枠に達せず12/17: 酪農生産の危機
- ローソン7期連続最高益12/18
付加価値商品ゲンコツメンチ(和牛脂?入り)が堅く好調
- スーパー6重苦12/19: 円安原料高、異業種競争激化、建設コスト高、
電気代アップ、パート職員不足、食品市場の縮小
- 新型鳥インフルエンザ中国南部で発症12/19: 注意喚起
- 2014年度畜産酪農対策予算額公表12/20
優良農家優遇策/勝ち組支援
- 配合飼料1-3月@700下げ12/20: 実質負担変わらず

東京直近NEWS (12/20ShREPORT)

- 枝肉相場: ホルス大阪、交雑2等級が急落している模様。
末端この時期でカタローズ荷余り感強い。評価高すぎて、売れず。実際各社在庫多く、年末年始販売分手当済み。上物品種の上位部位は全体停滞で、スソ物にシフト。
実際今年の年末は非常に静か。販売先や地方によって売れ筋もばらつく。
- ホルスモモも低迷しています。ここにきてローズの追加とスネ関係ぐらいです。
バラは冷凍規格含めて評価は高くないが堅調。
- 交雑は全体ひと段落している模様。ホルス同様にモモは低迷と単価とれず。
- 和牛モモやウデ不足、ロイン荷余り、枝4等級@1700台売り情報。
バラは少なく各社セット販売条件の模様。



この度のNews発行を機に、これまでHome Pageで報告してきました肉牛に関する学会・研究会参加記事を毎月1回のペースで小分けして掲載を続けます。私は手術後手足が不自由となり、会議に参加は出来ませんので会報から得た読み解きの情報です。ご了承下さい。A4 1/2の字数制限があり、大体一件を5行程度に纏めたいと考えています。詳細を知りたい方は事務局までお知らせ下さい対応いたします。尚、掲載は順不同です

1. 家畜栄養生理研究会秋季集談会 2113.11.9 熊本「食肉生産と栄養生理」抜粋

1-A. カンショ焼酎粕濃縮液を利用した肉用牛肥育技術の開発
農研機構・九州沖縄農業研究センター 神谷 充

水分約95%のカンショ焼酎粕を固液分離・濃縮してDM49%の濃縮液に調製すると、粗タンパク質20%DM, NFE65%, TDN77%, 緩衝能1358mIE/kgDMの飼料原料となった。これを30%、玄米、フスマ、乾燥豆腐粕、ミネラルの発酵TMRとして慣行飼料の60%代替して16ヶ月の黒毛和種肥育牛に仕上げ5ヶ月または中後期12ヶ月間給与した。その結果、発酵TMRの嗜好性はよく、飼料摂取量、日増体量、枝肉格付け成績、脂肪酸組成や脂肪含量に有意な差は認められなかった。

1-B. 周年放牧肥育牛肉の生産技術と肉質特性
農研機構・九州沖縄農業研究センター 中村好徳

褐毛和種を体重約300kgで導入し、目標体重約700kgまで530日、積雪ゼロの低標高西南暖地で周年放牧肥育する試験を行った。夏季牧草はバヒアグラス、冬季牧草はイタリアンライグラス、補助飼料は、コーンサイレージとライグラスである。補助飼料がなければ周年放牧で高い増体量を維持できず、冬季には大麦を原料とした麦焼酎粕濃縮液を給与した。屠畜月齢は約26ヶ月、体重640kgであった。冬季放牧時の飼料摂取量は6.6kgと推定された。肉質では、和牛肉よりも遊離アミノ酸やペプチドなどの旨み成分が多く、脂肪含量が少なく、黄色が強かった。

次号
掲載

2. 日本畜産学会第116回大会講演要旨 2013.3.28-30 抜粋

3. アメリカ穀物協会・十勝農業協同組合連合会共催DDGSセミナー 2013.7.1 抜粋

畜産試験場NEWS

黒毛和種去勢牛の牧草サイレージ給与による育成と肥育成績 シリーズ ①

資源循環型牛肉生産シンポジウム 地方独立行政法人総合研究機構畜産試験場牛肉グループ 遠藤 哲代

